

社団法人日本喫煙具協会における  
ライターに関する消費者広報に  
ついて



進む、CR機能付ライターの導入。  
しかし、いちばんの解決策は  
“子どもにライターを触らせないこと”。

子どものちからでは押せないよう着火スイッチを重くしたり、ストッパー等の安全装置を組み込んだ、CR(チャイルド・レジスタンス)機能付ライターをご存知でしょうか。

日本喫煙具協会では、会員事業者呼び掛け、子どもが簡単に使用することができないCR機能付きのライターの導入を進めています。

しかし、CR機能付きのライターは事故防止のための対策の一つでしかありません。

最も重要で効果的な対策は、“子どもにライターを触らせないこと”です。

大切なご家族を守るために、ご家庭でのライターの取り扱いや保管にご注意をお願いします。



使い捨てライター(ガスが残っている場合)は、  
正しく捨ててください。



1. 周囲に火の気が無いことを確認する。
2. 操作レバーを押し下げる。着火した場合はすぐに吹き消す。※1
3. 輪ゴムや粘着力の強いテープで、押し下げたままの状態ですレバーを固定する。※2
4. 「シュー」という音が聞こえれば、ガスが噴出している。(聞こえない場合は、炎調整レバーをプラス方向にいっぱいに動かす)
5. この状態のまま付近に火の気がない、風通しのよい屋外に半日から1日放置する。(子供が触れられない場所に配慮する)
6. 念のために着火操作をして、火が着かなければ、ガス抜きは完了。
7. ガス抜きを済ませたライターは、各自治体が定めた方法で廃棄する。



社団法人 日本喫煙具協会

〒111-0042 東京都台東区寿3-19-5 TEL.03-3845-6121 <http://www.jsaca.or.jp/lighter>

ライター安全大使  
佐藤弘道



子どもを火から  
守れるのは、  
おとなだけです。

ライター火遊び事故から、  
子どもを守りましょう。

ライター火遊び事故・撲滅マニュアル



社団法人 日本喫煙具協会

<http://www.jsaca.or.jp/lighter>

ライター火遊び事故から、  
子どもを守りましょう。

# 子どもを守る、ライター4か条

1

## 子どもの手の届くところに、 ライターを置かない。

子どものライター遊びが原因とみられる  
痛ましい火災事故が相次いでいます。  
おとながライターの保管に十分に気をつ  
けることが、いちばんの事故防止策です。  
できれば、幼い子どもだけを車や家に  
置いていくことも極力避けてください。  
さらに、ライターは正しく処分し、通学路  
や公園など子どものいる公共の場所で、  
絶対にライターを投棄しないでください。



3

## ライターの火遊びを見たら、 すぐに注意してやめさせる。

子どもは、すぐにおとなの真似をしたがり  
ます。おとなが使うライターや火そのもの  
に興味を持ち、ライターを使って子ども  
だけで火遊びをする例が多く見られます。  
子どもを危険な目に遭わせないためには、  
社会全体で注意するという取組みが欠か  
せません。  
子どもの火遊びを発見したら、すぐに  
やめさせ、強く注意してください。



2

## 子どもにライターを 触らせない、点火させない。

子どもは元来、好奇心旺盛です。  
火を点ける器具という認識がないまま  
ライターを着火して、火傷するケースが  
あとを絶ちません。  
日頃から、子どもにはライターを  
触らせない、ライターで遊ばせない、  
という習慣をまず家庭で徹底させ  
ましょう。



4

## 理解できる年齢になったら、 子どもに火の怖さを教える。

火は生活に欠くことのできない大切な  
ものですが、取り扱いをひとつ間違うと  
大変な危険をもたらします。  
家庭や学校、地域社会において、火遊びの  
危険性や火の適切な取り扱いについて  
しっかりと子どもたちに教えることが  
重要です。

